

発行:ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303 TEL/FAX03-3755-1603

ラオスのこども通信 21号

(2001年7月発行)

2000年活動報告特集号



恒例の「ピーマイ・パーティ」が4月22日に行われました。日本各地で学んでいるラオスからの留学生も多数参加し、楽しいひとときを過ごしました。

ラオスのお正月、家族で、町じゅうみんなで祝います。

お釈迦様の誕生日にちなんで4月にピーマイ(新年)を迎えるのがラオス。ASPBのピーマイ・パーティでは、料理づくりに会場の演出にと留学生が活躍しています。そんな皆さんに今年はインタビューをしました。

——ラオスでは、どんなお正月を迎えますか。
「ラープなどご馳走をつくってお祝いし、町じゅうで水を掛け合います。ラオスの4月は暑いので気持ちいいんです。日本でもやろうと言っていたのですが、4月は寒くて風邪を引きそうなので、やめました」(ラープは牛肉などの肉とミントなどの香草をあえた料理。ASPBのパーティ、定番の一品)

——ラオスの暮らしについてお聞きします。男の子は頭を丸めて出家するんですね。
「はい、それが親孝行です。その2週間は余計

なことを考えなくなるので、頭の中がすっきりしました」

「いや、ぼくには2週間は長かった。あんなつらいことは、もうコリゴリ」

——では、女の子にとっての親孝行は?

「髪を長くすることです。お母さんが年を取って髪が少なくなったら、娘は自分の髪を切って、お母さんに使ってもらいます」

——最近はラオスも変化が激しくなってきました。帰省して何か驚いたことは?

「携帯電話を持った人が増えたことです」

「派手な服を着て帰ったんですが、町にぼくより派手なやつがいてビックリでした」

留学後は、日本で学んだ技術をラオスで活かしたいというみなさん。ぜひ、がんばっていただきたいと日本人一同、応援しています。

サバイディーピーマイパーティー報告

2001年4月23日 東京ガス南部支店大田ビル

ラオスと出会い、ASPBと出会う「ピーマイパーティー」。年々ボランティアの活躍が広がって、運営面やサービス向上にもいろいろなアイデアや挑戦が行われました。参加されたみなさん、いかがでしたか？

■ラオスがいっぱい！

日本の中のラオスが凝縮されたような1日でした。まずは欠かせないバーシーの儀式から始まって手首にたくさん白い糸をまいてもらい、ビアラオで乾杯、そして目移りしそうなラオス料理にみんなおいしい笑顔になると、今度は留学生のラオストークに耳を傾け、ため息が出るくらい美しいパリマさんの伝統舞踊に魅了され、最後には参加者みんながラオスの曲に合わせて踊る。会場の外も中も、ラオスの写真や、言葉や、民話絵本、布、クラフトでいっぱいです。多くの参加者がラオスやその他アジアの衣装に身を包み、日本にいながら存分にラオスを体験できるパーティーでした。

今年のサバイディーピーマイパーティーは、参加者125人、スタッフ・ボランティア40人、

ボランティア 座波圭美

ラオスをキーワードにあつまつた皆さんのおかげで、新年を祝うのにふさわしい楽しく盛大なものになりました。ラオスに旅行した方、ラオスでお仕事をしていた方、そしてラオスは未体験の方も、皆すぐにうちとけ、すてきな出会いも数多くあったと思います。そして、私たちASPBの活動もより多くの方々に知っていただけたのではないかでしょうか。ご参加、ご協力いただき本当にありがとうございました。

今年残念ながら参加できなかった方も、もっともっと楽しみたいという方も、ぜひまた来年サバイディーピーマイパーティーでできな一年の始まりをお祝いしましょう。

みなさまにとって素晴らしい一年になりますように。

東京ガス（株）南部支店のご協力に心より感謝申し上げます。また、飲料はアサヒビール（株）より協賛をいただきました。ありがとうございました。パーティーの収益約43万円は、ASPBの活動資金としてラオスの子どもたちの教育支援に役立てさせていただきます。

<アンケートより>

（回答34人）ご協力ありがとうございました。

良かったプログラム…留学生の話、伝統舞踊

良かった展示…写真展、ラオス語講座

感想…「いろんな人とお話しできた」「活動が楽しそう」「ラオスのことがもっともっと知りたくなった」「留学生の将来の希望に燃えて活き活きとした姿が印象的」そしてほとんどの方が「またパーティーに来てみたい」と答えてくださいました。

<お疲れさまでした！協力者のみなさん>

- 実行委員会：長田祐佳 工藤政則 近藤知子 桜井正子 清水宏子 竹内陽子 三浦由美子
- ボランティア：石井幸 近江由吏 大高智美 大平真木子 岡野直子 小林葉瑠 坂巻英一 齋藤莊一郎 佐藤卓弥 座波圭美 武田玲苗 中田路子 中田夢 長峰由紀子 野口温世 野田幸枝 林田創太 山本功子 横山真紀子
- 留学生：ヴィエンシー ウーン ジョイ トウイトウン トス ノー バーバオ パリマ モイ ルリー
- 食材協力：土井文江 文化堂西馬込店
- ASPB：赤井朱子 小川直美 風間美苗 チャンタソン 野口朝夫 南康雄 森透
- 撮影：川口正志 ●写真提供：津山恵子 ●チラシ制作：ジャンパーシー荘子（敬称略・五十音順）

2000年活動報告

「片手間ボランティア」からの決別を決意して一年。組織としての意思と責任の明確化、実行力を身につけることが今年のテーマでしたが、目に見えての改善までは到達できませんでした。

片手間ボランティアからの脱却、それをどう現実化させるか、中期3カ年計画を策定する過程で何回も討議が繰り返されました。その経過で、活動の現地化、移行を前提に、そのためにはこの3カ年ではどんな準備が必要かという視点でプロジェクトを構成するという姿勢が明確になってきました。

その一つとして、これまで東京側で年間計画を定め、ラオス事務所に実行を指示するという構図を改めようと、ラオス事務所責任者とコーディネーターを東京に招き、活動方針を討議する場を設け、現地の認識、希望を計画に反映できるように試みました。

またこの2年ほど積極的に取り組んできた、プロジェクトの評価活動も、最大のプロジェクトである図書箱・図書袋の配付活動について、国立図書館や他の支援団体と共に、全国的な評

価会議を実施することができました。

来年度以降の中長期3カ年計画の方向性を明確化するために準備をおこなった年だといえるでしょう。

一方ラオスでは、1999年から続く「ラオス観光年」のキャンペーンにより、観光客や資本の流入も増え、街は活性化しているように見受けられますが、反面、治安が悪化し始めているとの声も聞かれます。各地で爆弾騒ぎなどもありました。物価は上昇したまま、しかし公務員の給料は上がらずといった状況の中での庶民の生活は楽ではありません。特に、農業を捨てヴィエンチャンで働く生活を選んだ人々の中には、不況の影響で充分な賃金を得られず、貧困生活者が増えています。都市部の富裕階級と一般層とでは、所得格差が拡大しており、子どもにも影響が徐々に表れてきています。

出版プロジェクト

本会では、ここ数年出版図書の「質」を高めることに注意を払う方針で行っていますが、そのためには出版までに時間がかかるてしまい、結果として、多くの種類の図書を出版することができなく

なっています。2000年は、8点の出版を計画していましたが、5点の出版となりました。現地からの要請や印刷技術の向上も伴い、5作品全てが全頁カラー印刷でできました。

新作（2タイトル）

『おほしさまきらきら
文字絵本3』
文：ドゥアンドゥアン
絵：コンクール入選者8名
部数：20,000部
支援：キヤノン株式会社



『ふしぎな4人の兄弟』
文：コンドゥアン
絵：ヌワンニパー
部数：5,000部
支援：一般寄附金

再販（2タイトル）

『なんのどうぶつ 文字絵本1』
『なんのどうぶつ 文字絵本2』
文：ドゥアンドゥアン
絵：セミナー受講者7名
部数：各5,000部
支援：キヤノン株式会社



改訂版（1タイトル）→

『ソムポーンの優しさ』
文：ウティン
絵：シートーン
部数：5,000部
支援：キッコーマン株式会社

この他に4タイトルが出版準備中

絵本作家育成プロジェクト

●民話絵本づくりセミナー開催

より質の高い本をつくり、人材を育成することを目的としたセミナーを3月18・19日にヴィエンチャンで開催。日本から編集者の井上博子さんを派遣し、森が進行役となり、現地講師と共に実施しました。

セミナーは民話や絵本についての講義の後、グループで民話絵本をつくるワークショップ形式で行われ、活発な議論が交わされました。

●民話絵本コンクールの実施

3月下旬から募集を開始し、7月末に締め切

るという短い期間にも関わらず、コンクールには各地から28作品の応募がありました。多くの応募作品が集まることに加え、地方からも作品が寄せられたことに手応えを感じました。

ヴィエンチャンと東京それぞれで審査を行い、それらを合わせる形で、12月上旬によく受賞作を決定しました。全部で12作品がおはなし賞・絵画賞・準絵画賞を受賞。うち3作品を次年度に出版する予定です。

プロジェクト支援：地球市民財団

図書箱・図書袋プロジェクト

図書箱や図書袋に各種図書を詰めて、各地の小学校へ届け図書館として機能させるプロジェクト。1校あたりの配付図書数をそろえるために、図書箱は1箱ずつ、図書袋は2袋ずつ配付。その際に、各学校の担当の先生を集め、本の利用法や貸出方法を伝えるセミナーを実施しています。

2000年は、計132校に対し、総計約22,000冊の本を届けることができました。

また、これまでに配付した学校に対する図書の補充及び利用状況の調査を行なうフォローアップも近年重要視しており、2000年はこれまでの倍の規模で実施。計200校に対し、総計25,000冊の図書を補充できました。

地域	箱	袋	補充
カンムアン県	42	52	57
ヴィエンチャン市	30	8	
ボリカムサイ県			63
ヴィエンチャン県			80
合 計	72	60	200

1992年以来通算して、箱を857校、図書袋を475校、計1332校に配付しました。

●ラオス読書推進運動 評価会議

ラオス国立図書館の進める読書推進運動は1990年に開始し、「2000年までにすべての小学校

に図書箱を配付」を目標に進められてきました。今年はその区切りの年にあたり、本会が中心となり評価会議の開催を呼びかけました。当会は1992年から協力していますが、配付した数字上の結果だけではなく、「質」の面でも評価を行う必要があると考えたためです。

同じく継続支援してきたSVA、ユニセフとも協力し、国立図書館、教育省と共に準備を重ね、7月には準備会議、10月～11月には活動地域での調査を3ヶ所実施しました。

評価会議は、各県から教育局の担当者と学校の先生合計48名が参加し12月15日～18日ヴィエンチャンにて開催されました。国立図書館館長の報告によると、これまでに配付した学校は5737校とのこと。会議ではグループに分かれて、問題点や解決法などに関する積極的な議論が交わされ、最後に情報文化省と教育省に提出する提案項目を作成しました。

今回の会議では、評価ということが定着していないラオスにおいては、こちらの意図が必ずしも伝わらなかったきらいはありますが、我々自身にとって、活動の意味を常に考える、一つの基準が明確になったといえます。

プロジェクト支援：郵政省国際ボランティア貯金・国際開発救援財団・庭野平和財団・指定募金（図書袋）13口

子ども文化センター（CCC）

当会は1994年より情報文化省に協力し、学校教育ではほとんど行われていない図画工作・音楽などの情操教育の場として、児童館のような役割を担う「子ども文化センター」を開設、運営支援をしています。本年度はヴィエンチャン、ボリカムサイ、サイヤブリ、ルアンパバーン、ゲンタオ市の5ヶ所の運営を支援しました。

本年度の特色は、以下のとおり。

- 中央CCC局スタッフに手当を支払い、協力関係を強め、CCC活動のアドバイスなどをもらうことになりました。
- 休日には300人ぐらいの子どもが集まるため、場所が不足しているサイヤブリの状況改善のため、建物の床下部分の改修を支援。
- 各CCCが行う県内地方での活動への支援も積極的に実施。以前は利用者であった子どもが大きくなり、青少年ボランティアとしてこの活動に協力しています。
- 各CCCの広報とネットワークづくりのため、ニュースレター発行費用を支援。サイヤブリは3号まで、ヴィエンチャンとボリカムサイは1号が年度内に発行されました。
- 活動が充実し、先進的な活動を積極的に行っているサイヤブリCCCにおいて実施した、他の

CCCスタッフ対象のトレーニングセミナー開催費を支援。

●サイヤブリ県南部にあるゲンタオ市は、資金支援がないながらも、独自に活動をしていました。当会現地マネージャーの判断により、先方と協議の上、数年間、運営費支援を実施することにしました。

●美術教育専門アドバイザー派遣

6月22日～7月30日、美術教育専門家である平井尚美さんを派遣し、CCCで行われている美術教育の実態と課題を探る調査を実施しました。3ヶ所のCCCをまわり、現地スタッフとともに様々な実践活動も行っていただきました。現地では、授業プランや道具の管理などに関する具体的なアドバイスをいただき、講師の間にはこれまでみられなかった教材開発に励む姿もありました。

また、よりラオスに根ざしたCCCという視点から、プロジェクトや現地事務所の運営に対する東京事務所のあり方などについて、具体的な課題が示され、今後の計画を立てるまでの重要な提言をいただきました。

プロジェクト支援：郵政省国際ボランティア貯金・
株式会社ミクプランニング・指定募金30口

芸術教員養成学校の学生による
絵画教室のようす
(ヴィエンチャンCCC)

美術教育専門アドバイザー、平井尚美さんが現地で実施したワークショップで、出来上がった作品
材料は全て身近に手に入るものを利用しました



ワークショップで子どもたちがいっしょに描いた絵を見ながら話をする平井さん



学校図書室整備プロジェクト

小中高校において、空き教室を利用して、図書室を設置するプロジェクト。愛読を意味する「HakArn（ハクアーン）」の愛称で各地に広まっています。当会では人材育成の観点から、特に中学や高校に重点をおいて実施しています。

前年度から開設がずれ込んだ分を合わせ、今年度は11校に整備することができ、2000年末までの合計は54校になりました。

地域	小	中高
ヴィエンチャン特別市	2	2
ルアンパバーン県	1	1
サイヤブリ県		1
ヴィエンチャン県	3	
カンムアン県		1

各校には150-188タイトル449-774冊の図書を提供。ラオス語図書だけでは出版数が不充分なため、ラオス語の翻訳を貼付した日本語図書も取り入れています。図書室開設にあたっては、図書館運営や、読書推進のノウハウを伝えるセミナーを開催し、図書の管理・補修をするための材料も同時に配付しました。

これまでに開設した44ヶ所の図書室に対し、各ヶ所約180冊の図書と補修材料の補充を実施。また、全国8ヶ所にある教員養成学校の図書室への図書の補充も行いました。

プロジェクト支援：キヤノン株式会社、外務省NGO事業補助金、指定募金6口

会の運営

ラオス事務所

責任者ソンペットも3年目となり、リーダーシップを発揮し、各プロジェクトの運営と管理が迅速にできるようになってきました。しかしラオス国内での書類も多くなり、事務作業量は増すばかりです。ソンペットとボーケオだけでは、充分に処理できない状態になってきました。この状況を改善するために、アシスタントマネージャーの雇用が早急に求められ、何人が試用はしましたが、結局本採用には至りませんでした。

配付図書準備作業量が増し、子どもに対する活動時間が少なくなっている問題に対しては、作

業の効率化を図るとともに、アルバイトを雇用するという対策がとされました。

また、東京事務所との通信を電子メールを中心としたことにより、より迅速な対応がとれるようになりました。さらに通信費を大幅に削減することができました。

更に本年度から、所長の裁量で使える予算枠を設置。本年度はゲンタオCCC運営費支援などに使われました。現地事務所の自立へ向けて予算枠を徐々に増やして行く方針です。

東京事務所

企業との共催イベント、他NGOと合同の各種学習会などへ参加などが増加した年となりました。企業や諸団体との関係が深まる分、信頼関係の維持やコミュニケーションの重要性も高まり、またメンバーには様々な能力が求められています。東京事務所の業務量が増大しているばかりでなく、仕事の質の高さも一層問われるようになり、組織としてのマネジメント能力の問題があらためて認識され、事務局長の専従化

が急務となってきています。

●事業調整派遣

各事業調整のため、メンバーの派遣が年間合計7回行われました。

また、各種事業調整及び中期計画立案のため、ラオスからマネージャとコーディネーターが、00年12月～01年1月の年末年始にかけ来日し、東京で会議を行いました。



「おいしいラオス料理はいかがですか～」イベントで大活躍のボランティアの皆さん
(国際協力フェスティバル2000にて)

●ボランティア

イベントを機に、ボランティアに新しい顔ぶれや、何回か参加してくれる人も徐々に増えており、イベントが参加者拡大にも結びついています。

日常事務作業についても定期活動ボランティアが少しずつ増え、入力作業や資料発送、イベントの企画運営などに活躍してくれました。

●情報発信

「ラオスのこども通信」を今年は初めて年4回発行。人手不足に悩んでいた発送作業も、グループで定期的に手伝ってもらうことが定着。半日で7割程度の発送ができるようになりました。

メールでの問い合わせも増加。当会のホームページはまだ準備中にもかかわらず、ホームページを見たという声も多くきかれるようになりました。昨年から課題の公式ホームページ開設が急務となっています。

●資金調達

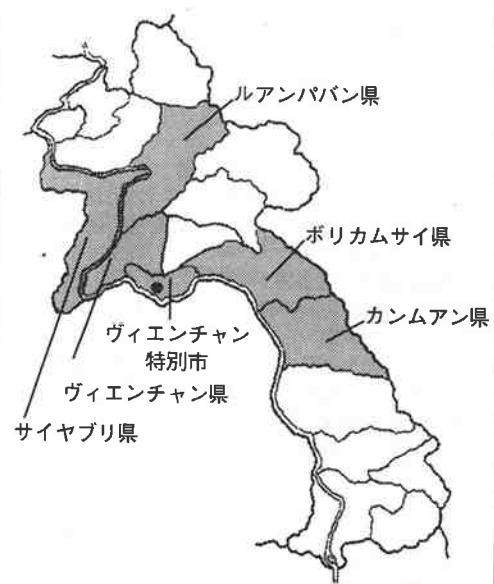
参加2年目となった「麻布十番納涼祭り国際バザール」では昨年の経験を活かし、収益を上げ、イベント収入が大きく増えました。

「アーユス=仏教国際協力ネットワーク」による、スタッフ赤井の人物費助成は、今年3年間のプログラムが終了しました。

●絵本2000冊運動

1999年1月からスタートし、目標2000冊のうち、約半数を達成することができました。学校や地方からの参加も多く、身近にできる国際協力活動として関心が高まっています。特に今年は、企業との合同イベントで貼付作業をまとめて行うことが多く、数を伸ばすことができました。

2000年プロジェクト実施地域



2000年度 収支報告書 (2000.1.1～2000.12.31)

2000年収支報告書について

当期収入は予算を上回る収入合計となった。内訳をみると、一般寄付については、件数・金額共に前年とほぼ同じ、助成金が低くなり、イベントの収入が増加し、全体としては自己資金率が高くなった。

支出において、予算額に対し、決算額が大幅に低いのは「出版」と「絵本作家育成」。これは出版資金への入金が予定よりも少なかったことと、実行が次年度に繰り越されたものがいくつかあるため。また、年間合計5タイトル4万冊は近年の中では低い数値ではなく、さらに現地での印刷コストが安くなっていることも決算額が低くなった原因である。

予算額に比べ決算額が大きく上回ったプロジェクトは、「CCC」「学校図書室」。CCCは、建物修理やトレーニングセミナーなど予算に組んでいなかったが、緊急度の高さから、すぐに実行したためである。また、学校図書室は予定では新規開設4校であったが、現地からの要請も多く指定募金でのご支援もあったことから、11校開設することができたためである。

	予算	決算	摘要
■前期より繰越	6,000,000円	9,253,526円	プロジェクト準備金
■収入の部			
一般寄付	3,500,000円	4,455,707円	延べ454件(10万円以上の寄付者は以下の通り) 出雲大社教教務本庁、国際ソロブチミスト出雲 富士ゼロックス(株)端数俱楽部、国際協力カウンシル チャンタソン アジア女性・人権特別賞、南 康雄 自治労町田市職員労働組合 郵政省国際ボランティア貯金、国際開発救援財団 外務省NGO事業補助金、キヤノン(株)、地球市民財団 アーユス=仏教国際協力ネットワーク、庭野平和財団 キッコーマン(株)、東京スタッフ人件費指定寄付 学校図書室(7口)、図書袋(12口) 子ども文化センター(30口)、絵本印刷(81口) 教員養成校奨学金、小田原ユネスコ協会、(株)興伸 会出版図書有償譲り渡し(ラオス事務所扱い) 各種イベント参加費及び売上・外貨募金 物品売上・書籍売上・預金受取利息・換算差益
助成金・指定寄付	15,500,000円	11,305,987円	
指定募金	1,500,000円	1,703,250円	
特別指定プロジェクト		925,000円	
出版配布図書譲渡		553,542円	
イベント収入	1,600,000円	3,671,179円	
雑収入	400,000円	666,564円	
収入合計	22,500,000円	23,281,229円	
■支出の部			
1. プロジェクト経費	予算	決算	摘要
●絵本1冊運動プロジェクト			
<出版>			
創作絵本(新刊) 出版費	3,120,000円	1,040,069円	『ふしぎな4人の兄弟』5000冊『文字絵本3』20,000冊
再版図書 出版費	1,800,000円	938,391円	『文字絵本1・2』『ソムポーンの優しさ』計15,000冊
環境教育の絵本 出版費	600,000円		
出版 計	5,520,000円	1,978,460円	次年度出版予定
<絵本作家育成>			
ハンドブック制作費	90,000円		次年度印刷予定
民話絵本づくりセミナー開催費	564,000円	341,524円	受講者日当・会場費・日本からの専門家1名派遣費
民話絵本コンクール開催費	232,800円	102,144円	広報費 画材費 審査員謝礼 奨励金
作品出版費	1,800,000円		優秀作品3点を2001年出版予定
絵本作家育成 計	2,686,800円	443,668円	
<移動図書箱・図書袋>			
図書箱・図書袋製作費	2,400,000円	2,355,769円	箱・袋制作費、箱・袋詰め図書代 72箱・120袋
配布セミナー費	288,000円	335,700円	2県で実施 合計132校へ図書箱・図書袋を配付
フォローアップ費	2,736,000円	2,188,153円	3県で実施 合計200校へ図書を補充(1ヶ所125冊)
地域拠点校支援費・広報費	120,000円	36,399円	ニュースレター発行費・ラジオ番組制作放送費
事業評価会議運営費	240,000円	282,257円	「ラオス読書推進運動評価会議」開催費
図書箱・図書袋 計	5,784,000円	5,198,278円	
<統括管理>			
通信費	180,000円	134,892円	当プロジェクト該当分(全通信費の35%)
現地プロジェクト人件費	308,160円	301,299円	現地担当スタッフ1名 出版コーディネーター1名
調査・調整派遣費	540,000円	595,085円	東京メンバー現地出張費3回(11月・12月)各1名
絵本1冊運動統括管理 計	1,028,160円	1,031,276円	

●子ども文化センター（CCC）			
CCC運営費（5ヶ所）	1,778,400円	2,526,399円	講師・スタッフ人件費、教材費・事務経費 5ヶ所分
補充図書購入費	240,000円	356,169円	各CCCへ補充図書購入
文化センター建物補修費		259,374円	サイヤブリCCC 建物修理
トレーニングセミナー費		214,450円	CCCスタッフのためのセミナーをサイヤブリで開催
専門アドバイザー費	360,000円	362,934円	美術教育専門家1名派遣費・現地セミナー開催費
現地プロジェクト人件費	153,600円	106,483円	中央CCCスタッフ1名00/7月より、担当スタッフ1名
ヴィエンチャンCCC家賃	115,200円	103,834円	2000/10月分-2001/9月分 該当スペース分
調査・調整派遣費	540,000円	540,994円	東京メンバー現地出張費2回（3月・7月）各1名
通信費	180,000円	69,373円	当プロジェクト該当分（全通信費の18%）
子ども文化センター 計	3,367,200円	4,540,010円	

●子ども文庫 学校図書室			
新規図書室開設費	984,000円	874,194円	本棚・机・椅子・図書教材購入費、セミナー費 11校
図書教材購入費（フォロー）	1,032,000円	2,555,664円	99年までの整備分43ヶ所 教員養成校8ヶ所
日本語図書翻訳貼付経費	300,000円	164,944円	日本語図書へのラオス語貼付経費 翻訳料
特定図書室運営費		95,364円	HakArn34（トンサンナン村図書室）運営費支援
管理人件費	227,040円	233,838円	現地担当スタッフ 2名・学校図書室休日開室手当
子ども文庫家賃	115,200円	103,834円	2000/10月分-2001/9月分 該当スペース分
子ども文庫備品費		315,193円	子ども文庫本部 コピー機購入費
調査調整派遣費	270,000円	162,160円	東京メンバー現地出張費2回（7月）各1名
通信費	180,000円	73,227円	当プロジェクト該当分（全通信費の19%）
子ども文庫 学校図書室 計	3,108,240円	4,578,418円	

●特別指定プロジェクト			
特別指定プロジェクト		653,063円	教員養成学生奨学生・特定小学校・図書室支援費
通信費		11,562円	当プロジェクト該当分（全通信費の3%）
特別指定プロジェクト 計		664,625円	

●その他			
イベント経費	700,000円	1,962,277円	イベント食材費・経費・勉強会経費、領布品仕入
プロジェクト予備費	120,000円		現地事務所扱い分 ゲンタオCCC運営費に使用
その他 計	820,000円	1,962,277円	

2. 会の運営（プロジェクト管理）

●東京事務所経費			
事務所経費	480,000円	480,000円	00/2月分-01/1月分家賃（水道光熱費共）
通信費	100,000円	53,948円	郵便代 国内外電話（プロジェクト該当分除く）25%
運搬費	100,000円	80,057円	現地へ図書輸送費・紙芝居送料（国内）など
事務経費	290,000円	347,749円	事務用品費・記録費・リース料・修繕費・小額備品費
広報費	500,000円	882,073円	ニュースレター発行（年4回）チラシ・封筒印刷
人件費	3,150,000円	3,527,153円	有給スタッフ2名（通勤費・法定福利費共）・交通費
雑費	100,000円	56,546円	諸会費・交際費・支払手数料・会議室使用料
東京事務所経費 計	4,720,000円	5,427,526円	

●ラオス事務所経費			
事務所経費	100,800円	65,781円	00/10月分-01/9月分家賃該当分（水道光熱費共）
通信費	72,000円	42,403円	国内外電話 郵便代（プロジェクト該当分除く）25%
事務経費	163,200円	178,160円	事務用品費・記録費・修繕費・広報費・小額備品費
人件費・交通費	361,440円	485,650円	マネージャー1名、スタッフ厚生費・交通費
雑費	30,000円	87,986円	諸会費・交際費・支払手数料・日用品等
ラオス事務所経費 計	727,440円	859,980円	

●その他			
その他 予備費 計	738,160円		
□支出合計	28,500,000円	26,684,518円	
□当期收支差額		△3,403,289円	
□次期繰越金	0円	5,850,237円	指定プロジェクト援助前受金及び費用未払い分含む

2001年～2003年 ASPB中期活動計画(概要)

2000 年までの中期計画が終了したことを受け、今後の会の活動はどの様であるべきかと、この 1 年間、活発な意見交換が行われてきました。その結果、次のような今後 3 年間の活動計画がまとめられ、5 月 26 日に開催された総会で決定されました。この計画は、ラオスの子どもたち自身が、意思決定と問題解決の力を身につけるようになることを最終目標に、会としては 6 つのプロジェクトを設け、

■主体たる=子どもたちに対して

- ・本を読む習慣を広める

- ・自分を表現する楽しさを広める

■状況=社会に対しては

- ・多様な選択肢が示されている状況を創る活動をおこなってゆこうというものです。
- このプロジェクトを実施するに当たっては、
- ・子どもが持つ力を引き出すよう働きかける
- ・子どもたちが力を發揮できる場を創る
- ・ラオスでの活動の担い手を発掘、育成し、パートナーとして共働していく
- などを強く意識してゆくことも併せて、合意されました。

プロジェクト	活動方針	活動計画	必要なもの・こと・人	3年後の成果
絵本づくり	絵本づくりノウハウの確立(自立)	<ul style="list-style-type: none"> 出版社機能を育成 編集担当者を育成 質の高い絵本を紹介 海外作品を翻訳、出版 創作、再版絵本を出版 絵本のつくり手を育成 「手づくり絵本運動」推進 	<ul style="list-style-type: none"> ←出版委員会設置 ←編集担当者雇用 ←参考図書の整備 ←翻訳者の養成 ←コクーン開催 ←推進者・仕掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会が出版プロジェクト ・多様な分野、読者に対応した本20タイトル出版 ・つくり手層の拡大 ・手づくり絵本を楽しむ人の増加 ・ラオス的な「質」の形成 ・絵本の制作・供給/読みが拡大
紙芝居	双方向、共感性を活かし、「楽しいメディア」として普及 自己表現、草の根のメディアとして紙芝居文化を広める	<ul style="list-style-type: none"> ・つくり手を育成 ・作品を出版、配布、普及 ・エイズ、麻薬、保健衛生、環境など子どもを守るために知識紙芝居を出版 ・「手づくり紙芝居運動」 ・街頭紙芝居を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ←日本人専門家の派遣 ←ワークショップ・コクーン開催 ←専門分野の協力者 ←制作者 ←推進者・仕掛け発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオス人がワークショップを指導、運営 ・教材として学校で活用 ・手づくり紙芝居を楽しむ人が増加 ・多様な紙芝居が出版 ・メディアとして活用 ・ラオスの紙芝居文化が形成
読書推進	公的システム化へ 提言、働きかけ 持続可能な体制を整備 本の活用の多様化、活性化をすすめ、生活への定着を促す	<ul style="list-style-type: none"> ・図書箱・図書袋を配付 ・学校図書室を開設 ・図書補充、フォローアップ継続 ・教員養成学校でセミナー開催 ・監督官のセミナー受講を推進 ・中央・地方政府と社会に読書推進の意義を広める ・読書と子どもの自己表現を結びつける働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ←公的資金で包括的に実施 ←日本人プロジェクトマネージャー派遣 ←関係省庁との連携 ←ラオス人講師 ←読書啓発雑誌発行 ←つづり方コクーンなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書箱・図書袋を1000校に配付 ・ラオス人が読書推進セミナーを自主運営 ・学校のカリキュラムにおいて教員が図書を活用 ・教育が充実し、学校に通う子どもが増加 ・読書推進が教員養成課程に導入される ・読書推進の理解と図書利用がすすむ ・子どもの生活に本を楽しむことが定着
書店	書店システムを提示 買いたい人・買える人に機会提供	<ul style="list-style-type: none"> ・1号店を開業 ・市場性、採算性の試行 	<ul style="list-style-type: none"> ←店舗責任者(店長) 事業システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の本」を所有し、本を大切にする子どもが増加 ・読みたい本を主体的に選ぶ読者層が形成
子ども文化センター	子どもの居場所として自己表現自己実現の場を提供 社会の都市化に対応し子どものシェルターとしての役割を意識 持続可能な運営システムを模索	<ul style="list-style-type: none"> ・運営者と理念を形成、共有 ・プロジェクト運営に子どものニーズを反映させる ・指導を、子どもの力を引き出す方向で高める ・CCCのOBによる青少年ボランティア活動を育成 ・行政・地域に理解支援を求める ・VTE市教育局と協力、情操教育普及、指導者育成 ・新しいCCCの初年度運営、職員研修を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ←CCC全スタッフ会議の定例化 ←館長・職員の研修 ←重点分野の指導員を常勤化、研修強化 ←ニュースターの発行 ←「教育活動開発センター」開設 ←VTECCC移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の共有による効果的な運営 ・子どもの居場所として地域に定着、安定した運営が行われる ・指導員が教材や指導計画を作成、実行 ・活動を自己評価、部分的に独自の資金調達 ・ボランティアが次世代の担い手を形成 ・行政・地域に理解支援体制が整う ・地方CCCが増加、安定した活動を行う
調査	ラオスの子どもの実像を把握する	・全国3ヶ所で実施	<ul style="list-style-type: none"> ←日本人専門家 ←ラオス人調査員 	・英語とラオス語で報告書を出版

2001年活動計画

1 活動方針

- 新中期3カ年計画の初年度として、活動理念に基づき、各事業の自立（ラオス人主体による持続的運営）あるいは終結へ向けた基盤整備をすすめる。
- 各事業の担い手の発掘・育成と持続可能なシステムの形成に力を入れる。
- 現地調査を行い、ラオスと子どもの現実に基づいて、実施すべき活動を実施する。
- 運営面では組織としての責任体制の確立と事業運営能力の向上を図る。

2 活動計画

(1) 絵本づくりプロジェクト

編集など絵本づくりの能力を向上させると同時に、人材のすそ野を拡大し、ラオス社会に絵本文化を普及、浸透させていく。

- ① ラオス人による出版委員会が作品の選定、アドバイス、進行管理を行う。実務を通じて編集・出版のノウハウを蓄積していく。
- ② 再版・新刊あわせて10種類、総計50,000冊程度の出版を行う。
- ③ 海外作品の翻訳・出版の準備を始める。
- ④ 「手づくり絵本運動」の企画と準備を行う。

(2) 紙芝居プロジェクト

双方向性、共感性という特性を活かし、「楽しいメディア」としての普及をすすめる。

普及の推進者となるラオス人パートナーを発掘、育成し、自己表現のメディア、草の根のメディアとして、ラオスの紙芝居文化の形成をめざし、共働していく。

- ① 日本人専門家によるワークショップの開催
- ② 教員養成学校で「おもしろい教材」づくりのワークショップを実施
- ③ エイズ、麻薬、保健衛生など、子どもを守る知識を広める紙芝居の出版を企画する。
- ④ 「手づくり紙芝居運動」の企画と準備を行う。

(3) 読書推進運動プロジェクト

これまでの「図書箱・図書袋プロジェクト」と

「学校図書室プロジェクト」を統合。本の活用の普及と定着をめざし、担い手の育成と、公的システム化の働きかけを行う。

- ① 図書の補充とフォローアップを拡充する。
- ② 学校図書室は、中学・高等学校に重点を置いて開設する。
- ③ 図書袋は80袋を製作し、計40校に配付。
- ④ 教員養成学校の学生および教育監督官を対象に読書推進セミナーを実施。
- ⑤ 読書啓発雑誌を創刊、年4回発行する。

(4) 書店事業

本の普及形態のひとつとして、「書店」というシステムを立ち上げ、本を買える人・買いたい人に機会を提供する。

- ① ヴィエンチャン特別市で1店舗の開業準備を始め、市場性の検証、採算性の試行を行う。

(5) 子ども文化センター（CCC）

「子どもの居場所」として、自己表現・自己実現の場を提供すると同時に、都市化の弊害から子どもを守るシェルターとしての役割を意識した、子ども本位の運営を行う。既存のヴィエンチャン・ボリカムサイ・サイヤブリ・ルアンパバーンの4ヶ所は、自立（持続可能な運営システムの確立）をめざし、理念の共有化と、機関運営および子どもの活動の両面での人材育成をすすめる。

- ② CCC全スタッフ会議を開催し、理念、運営、自立について共通認識を形成する。
- ③ 既存の4カ所のCCCへの運営資金の支援額を今後3年間は通減していく。
- ④ 各CCC間の調整、調査、運営アドバイスを行う。
- ⑤ 各CCCがニュースレターを発行し、地方行政や地域社会に理解と支援を求める。
- ⑥ ヴィエンチャン市教育局と協力し、情操教育の普及と指導者の育成を行う。

(6) 調査

ラオスの子どもの実像を把握するための調査に先立ち、予備調査を実施する。

- ① 2001年9月に識字教育専門家を派遣する。

3. 運営計画

(1) 東京事務所

NGOとしての能力・体力を向上させるため、組織運営の体制整備、人材の育成、参加の拡大、財務体質の強化等に取り組む。また、機会があれば対外的な発言や働きかけを積極的に行う。

① 組織運営の体制整備

- ・事務局長専従・有給化のための準備を開始
- ・意思決定と業務遂行の迅速化のため、組織体制の見直しを行う。

② スタッフの能力向上、ボランティアリーダーの育成を図り、ボランティアスタッフの業務への参画を促進する。

③ 「絵本2000冊運動」・土曜日のボランティア活動・日曜勉強会など、活動参加の機会の多様化を図る。

④ 収益事業・支援者拡大・テーマを絞ったスタディツアー等による収入向上、および業務監査委員会による運営費の支出状況のチェック等を行い、財務体質を強化する。

⑤ ホームページの開設や英語資料の整備により、情報発信を強化する。

(2) ラオス事務所

将来、運営主体（本部機能）をラオス事務所に移すことを見据え、マネジメント能力の向上と各スタッフの能力開発を行う。またプロジェクトに係わるラオス事務所側の裁量範囲を徐々に拡大する。

① アシスタントマネジャーを配置する。

② 事務処理能力を向上させ、東京の事務処理の一部をラオス側に移行する。

③ 各スタッフをプロジェクトマネジャーとして養成する。

④ ラオス事務所マネジャー裁量の予算枠を段階的に拡大する。

⑤ 現地独自の資金調達に積極的に取り組む。

⑥ 日本人調整員常駐へ向け準備を開始する。

⑦ 「子ども文庫」の機能を、学校図書室の情報センター・研修センターとして拡充する。

⑧ 日本人ボランティアの受入態勢を整備する。

2001年予算（2001年1月1日～2001年12月31日）

前期繰越金	5,000,000円	■支出の部	
■収入の部		事業費	
一般寄付	4,700,000円	出版	6,360,000円
指定募金	1,800,000円	読書推進運動	9,879,600円
プロジェクト援助金	15,000,000円	子ども文化センター	4,435,200円
イベント収入	5,500,000円	特別実施プロジェクト	4,375,200円
雑収入	500,000円	事業費合計	25,050,000円
当期収入合計	27,500,000円	運営費	
(a) 収入合計	32,500,000円	東京事務所経費	5,176,000円
		ラオス事務所経費	906,000円
		運営費合計	6,082,000円
		(b) 支出合計	31,132,000円
		次期繰越金 (a) - (b)	1,368,000円

近年、様々な団体からの支援が徐々に増え財源が多様化してきました。プロジェクトへの支援を得られる一方で、事務所経費や人件費への支援は相変わらず少ないのが現状です。プロジェクト実施に欠かせない経費は、皆様からのご寄付やイベント収益金に頼っています。今後とも、当会そしてラオスの子どもたちを支えて下さいまようお願い致します。

2001年度役員（2000年度より継続）

代表：チャンタソン インタヴァン

総務：赤井朱子、小川直美

事務局長：森 透

監査：小沼千秋

事務局長代理：野口朝夫

顧問：小沢有作、越田稜、長野ヒデ子、

会計：風間美苗

やべみつのり、わかやまけん

アサヒビール ラオススタディツアー

ASPBの学校図書室プロジェクトに参加しました

アサヒビール株式会社 環境文化推進部 坂本知嘉子さん

アサヒビールのご支援でサラカム中学高等学校（ヴィエンチャン特別市）に図書室を開くことになり、そのオープンに合わせ社員によるスタディツアーを実施しました。全国の社員が翻訳を貼った絵本195冊を持参、ペンキ塗りや図書登録の作業などを、先生や生徒といっしょに行いました。

ASPBにとっても、企業との協力のあり方、スタディツアーのあり方を考えるよい機会となりました。

99年にバングラデシュを皮切りにスタートした当社の「スタディツアー」プログラムは、「国際的な活動の実体を体験することにより、国際社会に生きる企業の幅を広げ、世界のリーディングカンパニーにふさわしい実を深める」ことを目的に行っており、今回を含め12人の社員を派遣してきました。これまで視察を中心でしたが、今回は実際に体を動かし、より多くのことを得てほしいと考え、ASPBの学校図書室プロジェクトのお手伝いをさせていただきました。

「実際に自分の目で見たからこそ知り得た問題、生活の実状、国の問題等が多くある。長期的に見て意味のある援助をするためには、一時的なものではなく、継続できるシステムを作り上げることが必要だと思った。社内の人や自分たちのまわりの人たちにも、今回の活動が現地でどのように受け入れられたか、ラオスはどういう国かなど、もっと興味を持ってもらいたい」
(広報部 小國薫)

このように実際に見て考えたことをいかに自分たちの中で消化していくかが私たちのこれから の課題です。何をしていいかわからない私たち企業人にとって、今回のラオスでの活動は自分たちに問いかけるきっかけと考える時間



をくれたように思います。これからも自分の視野を広げていく一つの方法として、日本とラオスの掛け橋としてのASPBの活動を、会社として個人として支援できればうれしいです。

「子どもたちの笑顔や、読み聞かせをしているときのあのキラキラと光る子どもたちの目を見ると、なんて素晴らしい事だろうとつくづく思いました。何年か先にまた、サラカム中学高等学校に行ってみたいなー」(福山支店 祈秀章)

「本やお金を一方的に送って終了ではなく、実際に、どのように使用されているか等を体験でき、子どもたちが本を大切に読んでくれそうな雰囲気を見られて良かった。会社では、本を送る意味、ラオスでの本の必要性を報告したい」
(生産技術研究所 鳴海加奈)

スタディツアー日程

- 5/11 夜ヴィエンチャン到着
 - 5/12 ヴィエンチャンCCC、市内見学
 - 5/13 サラカム中学高校（図書室ペニキ塗り）
 - 5/14 サラカム中学高校（開設式、作業など）
 - 5/15 ケオクー小学校図書室の活動を見学
 - 5/16 国立図書館見学 自由行動
 - 5/17 朝 成田着
- 同行：小川直美、ボーケオ
現地協力：あさぬまちづこ
ラオス青年同盟 A Hand for Friends

●ボランティアが見た学校図書室

今回のツアーには、ASPBのボランティアのふたりも合流しました。

「図書室の準備をしているとき、子どもたちが自発的に動いていたのは感動的。日本ではあまり見られないから。また、本を送ったあと貸出カード入れづくりや登録など作業の煩雑さが身にしみた」(清水 宏子)

「援助やボランティアというものにこれまで距離を感じてきたが、今回体験した個人的な喜びと先方の利益との一致は素直に受け入れることができた。会の活動の目的が今までと違った角度で身近に引き寄せられた」(加藤 佐代子)

絵本 2000 冊運動ニュース

日本の学校からラオスの学校へ、絵本の輪が広がっています！

＜東京から＞

「絵本にラオス語の翻訳を貼る作業を体験して」

東洋英和女学院中高部 YWCA 長友木の実

私たち東洋英和女学院 YWCA は、総勢 49 名で金曜日の放課後に活動しています。今年 2 月、初めて ASPB の「絵本 2000 冊運動」に参加し、絵本にラオス語の翻訳を貼る作業を体験してみることになりました。はじめは皆、NGO の活動に参加できるという期待に胸をふくらませていましたが、実際は本を集めるとこから送るまで全て自分たちでやらなくてはならず、途中、作業を続行できるか不安になることもありました。それでも何とか、先生方や役員の援助のもと、実行することができました。皆、子どもの時に読んだことのある自分たちの絵本を懐かしみながら、積極的に取り組んでいました。

この体験を通して、メンバー全員が初めてラオスという国を知り、ラオスという国が今どういう状況なのかということを、実感として受け止め



ることができました。そして、私たちそれぞれの中で世界を広げることができたと思います。

メンバーから、このボランティア活動は本の回し読みができるという利点をうまく活かした活動だという声も上がりました。ボランティアとは報酬はないけれど、その代わりに、必ず得るものがあると実感しました。

今回、私たちが送らせていただいた絵本は数少ないのですが、ひとりでも多くの子どもたちに読んでもらうことで、役に立てればいいな、と思っています。

＜福岡から＞

香住丘高等学校図書委員会の活動

今年も香住丘高等学校の図書委員会から、6 月 9 日に行われた文化祭の写真と、絵本のタイトルを知らせるお手紙が届きました。

同高図書委員会は、毎年文化祭でラオスについて展示発表と指定絵本の収集を行い、古本市の収益金を、絵本をラオスに送る時の船便代にあてています。絵本・古本の提供や、お客様からの釣り銭カンパなど、大勢の方が図書委員会を通じて「絵本 2000 冊運動」に協力してくださっているそうです。

文化祭でのラオスの紹介も年々パワーアップして、今年は何とルアンパバーンの正月名物「プー



ニュー・ニヤーニュー」の真っ赤なお面が！（写真）「見たい聞きたい知りたいラオス」「ラオスの人々と音楽」など情報も充実しています。

私たちにとってうれしいのは、みなさんがこの活動をいろいろ工夫して、楽しんでいること。これからもぜひ続けてくださいね。（事務局）

ここに紹介させていただいた学校のほかにも「絵本 2000 冊運動」に参加している学校がたくさんあります。いつかラオスの学校でも、みなさんのようなボランティア活動や「図書委員会」が活躍するようになるといいな。応援よろしくお願ひします！

東京事務所の動き

■3月

- 6日 東京世田谷南ロータリークラブ卓話会
(チャンタソンが卓話)
 - 7日 外務省「NGO活動環境整備支援事業」
NGO研究会(森が出席)
 - 9日 板橋区立みその小学校で国際理解授業
(チャンタソン)
 - 11日 運営会議
 - 12日 JANIC/UNDP共催「日本とアジア諸国の
NGOの能力強化と連携構築」国際会議
(チャンタソンが分科会で発題)
 - 15日 教育支援NGOネットワーク学習会
(野口が進行役)
 - 21日 大田区国際交流団体懇談会(小川が出席)
 - 23日 「ラオスのこども通信」20号発送
 - 25日 業務監査委員会
 - 27日 (財)中部建設協会 謹渡車両 贈呈式
(野口が出席)
- 4月
- 8日 運営会議
ピーマイボランティアミーティング
 - 12日 ベルマーク教育助成財団でラオスの
図書室事業打ち合わせ(チャンタソン)
 - 15日 ピーマイ実行委員会

- 16日 CCネット合同イベント打ち合わせ
(小川が出席)
- 18日 アサヒビールスタディツアーア事前説明会
(森・小川が出席)

- 21日 ピーマイパーティー準備
 - 22日 ピーマイパーティー
 - 25日 キッコーマン訪問(森・小川)
- 5月

- 8日 CCネット合同イベント打ち合わせ
(小川が出席)
- 11日~17日 アサヒビールスタディツアーバー(小川がラオス同行)
- 12日 生活クラブ生協「草の根市民基金」
公開選考会(赤井が出席)
- 13日 運営会議 ピーマイ反省会
日曜勉強会「子どもの権利条約」
- 17日 今井記念海外協力基金顕彰式
(森が出席)
- 18日 京都府三和中学校 修学旅行
訪問学習 受け入れ
- 26日 2001年度総会
- 29日 ワールドカルチャーキャラバン打ち合わせ
(小川が出席)

お知らせ

●ついに立ち上げ！ASPBホームページ。
ASPBのホームページが、この7月に立ち上げとなります。ご協力いただきました沖電気工業株式会社社会貢献推進室のみなさん、どうもありがとうございました。

URL : <http://homepage2.nifty.com/aspbtokyo/>

●ASPB参加予定のイベント

みんなのご参加をお待ちしています。ボランティアについては事務局までお問い合わせください。
麻布十番納涼祭り「国際バザール」

2001年8月24日(金)~26日(日)

東京都港区 一の橋公園

各国大使館や外国企業が多く、さまざまな国の方々が生活する街、麻布十番ならではの催しです。ASPBはラオス大使館、留学生と協力してラオス料理の屋台で参加。お近くの方はぜひお越しください。

国際協力フェスティバル2001

2001年10月6日(土)~7日(日)

東京都立日比谷公園

市民の国際協力への関心を高め、参加を進める目的に、国際協力にたずさわるいろいろな団体が大集合、活動紹介や各種イベントを繰り広げます。ASPBは活動紹介の展示とエスニックレストランに参加予定です。

OTAふれあいフェスタ

2001年10月13日(土)~14日(日)

東京都大田区 平和島競艇場

ASPB事務所のある地元の区民祭り。国際交流団体も多数参加します。ASPBは活動紹介とラオスコーヒー、手工芸品販売などを行う予定です。

●この夏の紙芝居イベントをご紹介します。

第7回全国紙芝居まつり東京大会

「集まれ！紙芝居の未来のために！」

2001年8月25日(土)~8月26日(日)

東京都文京区民センター

主催：第7回全国紙芝居まつり東京大会・実行委員会 ※参加費、申込み方法などは下記へお問い合わせください。申し込み期間 7月1日~31日 TEL/FAX 0280-31-0185(荒木)

TEL/FAX 03-3325-3384(菊池)